

下関市立大学新学部設置に関する有識者会議看護学部部会（第1回）議事【議事要録】

令和3年8月12日（木）14：58～16：33

下関商工会館3階第2研修室

下関市立大学新学部設置に関する有識者会議看護部会

：田中部会長、荒井会長、木下委員、田中委員、西生委員、久保田委員、石丸委員

事務局

：吉鹿総務部長、島崎総務部次長、牧野総務部参事、山田総務課主幹、作花総務課庶務統計係長、松浦総務課主任主事

オブザーバー

：下関市立大学 砂原事務局長

1.	開会のことば
事務局	定刻より早いが、全員そろっているので会議を開催する。 本日は、委員7人全員が出席しているため会議は成立している。 また、下関市立大学の砂原事務局長が参加しているので紹介する。 (砂原事務局長 自己紹介)
事務局	本日は、部会の開催であり、規則により部会長が部会の事務を掌理するので、ここからの議事の進行は、田中部会長にお願いする。
2.	議事
田中部会長	天候の悪い中、お集まりいただき感謝する。 また、新型コロナウイルス感染症再拡大であるため、感染症対策を講じた上、会議を開催する。 まずは、事務局から本日の進行について説明願う。
事務局	本日の議題は、会議次第のとおりである。 まず最初に、本日使用する資料の確認をする。 資料1から資料7まであり、一部本日席上配付したものがある。
	(1) 看護学部の設置について
田中部会長	それでは、議題1の「看護学部の設置について」の審議に入る。 最初に事務局から、配付資料の説明願う。
事務局	資料1は大学が実施した基本調査のうち、高校生の志願動向に関するものである。1ページ目は、3年前の大学調査によるものであるが、興味のある学問系統として、経済・経営等、文学、看護学・保健学が人気がある。看護分野は特に女子高校生や理系クラスでの人気が高い。 2ページ目は、中国地方、四国地方、九州地方の国公立大学の一般入試前期日程の志願者数の推移である。前期日程は、第1志望の学部学科を受験すると言わ

れているので、ここでの志願者確保が重要となる。国公立大学の看護学部の平均倍率は、2.7倍となっており、志願者は確保できている。

資料2は、下関市内の高等学校14校に対して調査を実施した結果、11校から回答があったので、合計値を表したものである。11校の合計は、3か年平均で、474人が進学し、そのうち、下関市内への進学は82人、17.3%、下関市内を除いた山口県内は65人、13.7%であり、7割近くが山口県外に進学している。また、進学した学部・分野は、経済学部や法学部などの社会科学分野が最も多く、その次は、看護学部、保健学部などの保健系となっている。市内卒業生の進路の一つとして、看護学部の需要があることがわかる。

資料3は、下関青年会議所が2018年に実施した下関市の女子ライフアンケートの調査結果を抜粋したものである。このアンケートでは、高校生に対する希望の進学先の学部・専門を聞いており、専門学校が17.2%、大学の看護学部が16.7%と高くなっている。ここで、看護学部について記載されており、「下関市内に大学としての看護学部は創設されておらず、専門学校ではなく、大学への進学を希望する時には、他市への進学を余儀なくされています。」とある。17ページでは、希望の就職先に関するアンケートで、高校生、大学生とも、トップはサービス業であり、次いで医療・福祉となっている。

資料4は、県内大学及び下関市内の看護師養成学校の入学及び就業の状況についてである。山口大学、山口県立大学は、志願者も多く、合格者の多くがそのまま入学している。高校へのヒアリングにおいても、山口大学、山口県立大学への進学を希望するが、難しくて入学できないという声もあり、人気の高さが伺える。一方、看護専門学校は、学生の確保に苦労していることがわかる。早鞆高等学校の衛生看護科は、志願者が2.5倍から3倍あり、需要がある。

卒業生の看護職員としての就業状況については、卒業生の多くは、看護師、保健師などの看護職員として就業し、山口県立大学では6割が県内に就業している。早鞆高校については、卒業後にそのまま准看護師として就職する生徒は少なく、多くが専門学校か大学に進学しているということであった。

資料4-2は、市内の看護専門学校であるウエストジャパン看護専門学校と准看護師を養成している早鞆高等学校衛生看護科の入学、就職又は進学の状況である。

資料5は、公立大学看護学部の就職・進路の状況についてである。卒業後は就職する学生が多いが、進学する学生もいる。進学先としては、大学院の看護学研究科や助産学専攻、養護教諭特別別科、助産学専攻科などとなっている。

次のページは、就職した際の職種と県内就職率を示したものである。看護師としての就職先は公的病院、大学付属病院などがあり、保健師としての就職先は市町村役場となっている。県内就職率は、ほとんどの大学で50%を超えている。

資料6は収支シミュレーションで、大学が実施した基本調査の数字を引用して、

	<p>市側で一定条件を設定して作成した。収入は、授業料、受験検定料、入学金の大学自己収入相当額をあげ、支出は、看護学部のみ教員、事務職員人件費、教育研究経費、一般管理費をあげている。自己収入のみでは、赤字となるが、市から運営費交付金として支援することにより運営は可能であり、また、その運営費交付金の額も基準財政需要額の範囲内で可能と考えている。</p> <p>資料7は、現在の下関市立大学の関門地域への就職状況で、7月21日の補足資料として提供するものである。</p>
田中部会長	資料等についての意見はいかがか。
委員	資料2で、「看護学部の需要がある」と判断した理由は何か。
事務局	資料2の「3 進学した学部（分野）について」で、「保健（他）」の割合が、3か年平均で全体の14.3%あったことから、需要があると判断した。
委員	承知した。
田中部会長	他に質問がないので審議に入る。看護学部の設置が可能か否か、あるいは設置する場合の課題等について意見を伺いたい。
委員	<p>設置する場合の市の負担額はいかほどと見積もっているか。</p> <p>また、運営が赤字であることについてどう考えているか。</p>
事務局	<p>イニシャルコストについては、まだ、建物等の詳細な設計は着手していない。しかし、他大学の視察等を行い想定しているのは、看護学部を80人から100人程度でスタートさせたとすれば、床面積が約5,000㎡程度必要と考えている。そこに、建築の基準単価をマックスの1㎡当たり30万円と想定して算出すると約15億円となる。さらに、看護学部においては、特有の設備等が必要となり、その費用が約3.5億円から4億円程と考えている。そういったことを踏まえると、約20億円がイニシャルとして必要になる。</p> <p>2点目の赤字の件については、一番少ない定員60人の場合、イニシャルの部分を除いて大学の自己収入だけで支出と差し引きすると、令和10年に5億4千万円の赤字となる。一方、基準財政需要額は7億9,400万円であるため、基本的には国から交付される金額が赤字を上回っており、運営はできると考えている。</p>
委員	交付金であるため、用途は指定されておらず、大学運営以外に使われる可能性がある。
事務局	確かに、交付税のそれぞれの項目ごとの明細は一切ないし、色もついていない。全体の予算の中での調整となるが、基本的には大学運営に支障のない形での運営費交付金の算定ということで財政当局に求めていく。
田中部会長	下関は、看護学校がとても多い。さきほど、早鞆高校の卒業生は進学すると説明があったが、進学先のほとんどが専門学校と考えられ、市立大学に看護学部ができてそれほどの進学は見込めないと考える。大学に進学すると、もう一度4年間、学び直しとなるので、その辺りは、編入学を設ける等の措置が必要かもし

	<p>れない。入学者が確保できるという見通しが必要である。</p> <p>また、国家試験合格率が大学の売りとなってくが、質の高い学生を確保できなければ、合格率も下がり、教育に苦勞することとなる。</p> <p>さらに、市内に既に看護学校がある中で、実習先を確保できるか。附属病院を持たない大学運営は大変である。また、教員の確保も課題である。</p> <p>看護系は、どこのデータを見ても、地元進学、地元就職の率が高い。</p>
事務局	<p>市内の専門学校は、ご指摘のとおり数多くある。各専門学校に、直接、話を伺い、早鞆高校や市内の進学校からも話を聞いた。</p> <p>その中で、現場の声として一番強かったのが、市内に4年間、看護を学べる場所がないということであり、そのことが非常に大きな課題であると実感した。高校からは、公立大学の看護学部は、一般入試では合格が難しいという声もあったが、市立大学に看護学部ができれば、高校生の進路の選択肢が増えるということ、進路指導の先生は言われていた。そして、3年制であっても4年制であっても取る資格は一緒であるが、4年の大学で学びたいという需要が多いことも聞いた。看護については、入口も出口も人気が高い。保護者からの視点では、「就職に困らない」「出口である就職先が保障されている」ということで人気がある。</p> <p>そして、看護学をめざす生徒は、地元志向が非常に強いと聞いた。よって、下関市内にないとしても、大阪以西、九州の学校への進学希望が多く、学費の安い公立大学を目指したい、という声が大きいと聞いた。</p> <p>市立大学について申し上げますと、これだけ大学間競争が激しい中、また、少子高齢化の中で、経済の単科だけで将来生き残っていけるか、と考えている。地域から大学がなくなるということは、影響が非常に大きい。大学の魅力向上ということで、やはり必要な学部だと考える。</p> <p>次に、看護の進路としての選択肢については、目指す方向、学力、自分の置かれた環境に応じて様々であり、3年制の専門学校、4年制の大学というのは、一定程度棲み分けができていないのではないかと感じている。</p> <p>市内の専門学校からは、「文科省のカリキュラム改訂で、3年間での授業に限界を感じており、専門学校そのものが4年制になる可能性もある。数年後には岐路に立たされる」との話もあった。</p> <p>そういったことを踏まえると、将来、4年制の大学「だけ」になるとは、思っていないが、4年教育が主流になると考えられる。</p> <p>次に、看護の需要については、数字的には、全国で約120万人の看護師がおられ、そのうち10%くらいの方が、毎年、退職されている。団塊の世代の方々もおられ、在宅医療の話もあるので、170万人くらいの看護師が必要という数字もある。この点からも、看護師の需要というものは、今後も一定程度続くと思う。</p> <p>また、ご指摘のとおり、質の確保というのは非常に重要だと考えている。</p> <p>実習先については、専門学校からも意見をいただいている。大学に看護学部がで</p>

	<p>きることについては、看護のレベルアップにもつながり反対はしないが、一番困るのは実習先であると。実習先の確保は、非常に大変であるということは、十分にお伺いしている。</p> <p>教員の確保については、今の時点で設置が決まっているわけではないため、正式に動くことはできないが、情報収集は行っている。</p> <p>7月に下関市立大学の法人評価委員会を開催したが、医師である委員から看護学部の設置について、「山口県内の医療の質、看護の質を向上させるという意味では喜ばしいことである」というご意見をいただいた。</p>
田中部会長	<p>新たに看護学部ができることで、既存の専門学校との入学者の取り合いになると思われる。地元からの推薦枠についても考慮が必要である。入学者の確保は懸案事項である。</p> <p>山口県立大学では、立ち上げ時に、大学院進学者に声かけをして、修学資金を用意して教員を確保した経緯がある。事例として紹介する。</p>
委員	<p>高校現場としては、公立大学へのニーズは間違いなくある。授業料の安さが魅力である。</p> <p>大学入学の方法として推薦入学があるが、地元推薦枠を設けていただければ、必ず質の高い生徒を送り出すつもりである。</p>
委員	<p>今、看護職には、コミュニケーション力と質の高さが求められている。公立大学であればその点はある程度保障されると考える。看護基礎教育の考え方も、4年教育ということが主流になりつつあり、市立大学に看護学部を作るとするのは時代の流れを先取していると感じている。</p> <p>懸念材料としては、実習先の確保である。地域でこれほど学校があれば、年度当初の4月、5月は新入看護師がいるので実習は受け入れられない、実習を受け入れられる期間は決まってくる、そうすると、実習先と期間に限られる。また、病院での実習の他に、最近では、地域での実習、介護分野での実習など徐々に幅広くなっていることも考える必要がある。ただ、下関市には市立病院があり、そこを行政として管轄をしているのであれば、実習母体としての病院があるので効率が良いと思う。</p>
委員	<p>進路について。大学を目指す生徒と専門学校を目指す生徒は違っており、専門学校を目指す生徒ははじめから専門学校を目指す。高専や大学を目指す生徒がいきなり専門学校にというのは、事例としてはそこまでは数がない。その点では、看護学部ができて、そこまで専門学校の経営を圧迫するということはないと思う。</p>
委員	<p>4年で看護師資格だけなのか、保健師資格を大学院の課程とするのか。学生募集で、看護学部を4年できちんと成立させるということの後には、自分の大学で講師陣、教師陣を育てていくシステムを組み立てていく必要がある。育てていく中では、大学という教育の部分だけではなく、医療現場にも所属していただくな</p>

	<p>どして、母体となる病院での実務と大学での教育という並行性が大事と考える。</p> <p>また、最近「地域」という分野もあるので、地元医師会にご協力いただいて、実習の場の広がりというところも位置付けていかないといけないと思う。</p>
委員	<p>市立大学に看護学部ができれば、市民病院としては、全面的に協力しないといけないと思うし、したいと思う。その辺は、確かに強みになると思う。</p> <p>また、優秀な学生を確保するのであれば、学費を安くするしかない。東京の私立大学も学費を軒並み下げているが、やはり、子どもが減って、優秀な学生を集めるには、学費を安くしないとイケない。学費を安くするために、市がどれほど力を入れて財政的にバックアップするか、これは市の覚悟だと思う。</p>
事務局	<p>授業料は全国一律ではないが、公立大学なので 53 万 5 千円と、一応決まっている。理系であっても、文系であっても同じ額である。</p>
委員	<p>奨学金制度もポイントとなる。</p>
田中部会長	<p>市民病院から協力体制の申出があったことは、強い味方である。</p>
事務局	<p>入学者の傾向について。今の市立大学は経済学部だけではあるが、市内入学者は 12～13%であり、市内就職は 8%である。また、県内入学者は 23～24%である。一番多いのが、福岡・九州方面である。本日は間に合わなかったが、北九州市内の高校へのヒアリングを実施し、感触を掴む予定である。</p>
委員	<p>山口県も下関市も人口が大幅に減る中で、需要があるのか、学生が入ってくるのか、という問題はああると思う。</p> <p>また、人口減で地域医療構想により病院ベッドが減るので、実習先の確保については、しっかり対応していただきたい。</p> <p>教員採用に当たって、現役の看護師の採用もあるかもしれないが、病院側の事情も考慮していただきたい。</p>
委員	<p>地方創生の中で、公立大学の役割というのは非常に大きい。下関市の生徒が市大に入って、そのまま下関市で活躍してくれる、これが大事だと思っている。市大は国立でも県立でもない、市の大学なので、市内からの進学者を最大限増やしていただきたい。</p>
委員	<p>保健部、公衆衛生の立場で申し上げたい。</p> <p>一つは、学生サイド、進学ニーズというところで、しっかりと把握していただきたい。もう一つは、プロバイダ、大学として、教育の質を担保できる教員を確保できるか、実習先を確保できるか、そういったところも課題であると思う。</p> <p>3点目は、大学を卒業した後でどういうところで活躍できるか、そういうニーズの観点から意見を述べるのが私の役割と思う。看護のニーズは、高齢化に伴い、医療、そして介護と増大していく。医療現場のマッチング、そして地域包括ケアと多様化しており、そういう意味では、4 年制の大学で看護を学んだ方のニーズは相当あるのではないかと思う。多様化、地域包括ケアの医療、介護というところを担っていただけるような人材の育成が求められる。総合大学の中で看護を学</p>

	<p>び、地元密着で育って、そういう人が活躍していただくというところでニーズがあると思う。</p> <p>また、下関市の特性として「関門圏」という捉え方があると思う。北九州市と下関市は行き来があり、看護師を山口県全体で養成していくというのとは少し違った視点もあるかと思う。山口県下の最大の都市である下関市にしっかりとした総合大学を作って、その中で看護教育をしていくことが重要だと思う。</p>
田中部会長	看護師養成以外に、保健師等の養成は考えているか。
事務局	話を伺うと、保健師資格や助産師資格もとれるカリキュラムを組んだ方がニーズはあるかと思うが、一方で、4年間でしっかりと基礎看護学を学ぶというのが今の看護の流れだと感じている。メインの先生の方針にもよるかもしれないが、基本的には4年の基礎看護教育を目指して、そして、専攻科や大学院で保健師資格、助産師資格を学んでいただく、ということを構想段階ではあるが考えている。
田中部会長	時流としては、4年の外と考える。今はカリキュラムが組めなくなっているので、4年プラス1年の保健師、4年プラス1年の助産師、そういったことが主流となってきており、まずは手堅く質の良い看護師4年間というのが王道である。
委員	<p>看護の話は初めてであり、大変興味深く聞いている。国家資格の話であれば、水大には「海技士」の資格を養成する専攻科があり、いま大変人気がある。</p> <p>これまでの議論で、前向きな話を拝聴させていただいた。今、コロナ禍で全国的に医療崩壊と言われており、看護師の需要が高いことを改めて認識した。職業選択の中でも、医療関係は非常に注目を浴びている。私たちが「真剣に議論して、学部を作る」ということが、高校生に対して熱意が伝わればよいと思う。</p> <p>近隣の国立大学に看護学科があるので、市内の高校生、県内の高校生はそういうところに行っていると思うが、志願者を見ると定数の2倍を超えており、潜在的な需要はあると考えられる。専門学校とは入学者の取合いにはならないと思う。</p> <p>また、下関市立大学ということで下関市の人たちのためにというのはあるにしても、やはり、高い志を持った学生に来ていただきたい。高い志を持っているのであれば、市内、県内にこだわらず、全国から優秀な学生が来ると思うので、そういう情報発信をしていくことが大事と思う。</p> <p>願わくば、他地域から下関に来ていただいて、そういう方が関門エリアで活躍していただきたい。山口県や下関市は、災害も少なく、住みやすい。質の高い教育を提供することで、他地域からの入学者も見込まれる。きちんと議論して、良い大学にしていきたい。</p>
委員	中学校の先生と話をすると、中学校から高校に進学する段階で看護師の志望が非常に増えている。高校の衛生看護科を目指す生徒も増えている。普通高校から高専、大学、専門学校の看護を目指す生徒も間違いなくいると思う。高校だけではなく、中学校の方からも直接情報を得られた方がよいのではないかと。
委員	中学校から高校の衛生看護科へという動きもあるが、看護協会としては、中学

	<p>校の進路指導の先生に、基本的には看護師資格を取っていただきたいと話している。看護師資格を得るための進路は複数あり、複雑である。その複雑な看護資格の進路をご存知ないという中学校の先生が多いので、ここ5年くらいで、県内の看護部長により県内の中学校・高校の進路指導の先生方に看護の進路の在り方について説明させていただいている。進路指導において、できれば看護師資格一直線でのご指導をお願いしているところである。</p> <p>資格が取れば早い方が良いという考えもあるが、今後は、包括的な指導の許可をいただいて、看護師が判断する場面が増えてくると思われる。看護業務も変わり、高度になってきているので、やはり教育は水準を高く持っていく必要がある。これからの医師の働き方改革の中で、看護師だけではなく、臨床検査技師や放射線技師などが医師のできるエリアをどこまでやっていくかという議論が、国全体で行われている。このため、看護教育は、また、変わっていくと思う。看護大学の中で、ある程度の知識を持っている人材の育成が大事だと思う。</p>
田中部会長	<p>さまざまなルートがあるが、資格を取るのにその教育課程がある程度整理される必要があると思う。基礎教育の年数が異なるのに同一の資格という矛盾はあるが、その辺りの整理は、今後進むと思われる。</p> <p>使命として、県立大学は県内の病院への就職を勧めることになる。独自財源は持っていないため、病院側と協定を締結し、奨学金をいただくなどの工夫も行っているが、卒業生は、高度医療・先端医療のある200床以上の病院への就職希望が多い。しかし、これからは、高度急性型の病院ではなく、地域・在宅をいかに支えるかというところで、地域包括並びに保健師的な動きができる人を養成しなければ、地域医療は崩壊すると思う。そういったことに、下関市は舵を切って、その教育を重点的にするとなれば、市民からの理解も得やすいのではないかと。</p>
市立大学	<p>大学サイドの気持ちをお伝えさせていただきたい。</p> <p>大学全体として、看護学部を「迎え入れる」という感じを持っている。経済の単科大学であるため、学生も研究者も考え方が少し一定の方向に偏っている。ここに、データや看護の新しい分野が入れば大学も活性化するし、考え方の幅が広がると期待している。看護学部ができれば、単にそこに看護学部があるというだけではなく、経済学部、データサイエンス学部に囲まれた看護学部、お互いの学部が双方向で行き来できるものを目指したい。単に看護師になるだけではなく、経済やデータの理論も身に付けて、幅広く活躍できる看護師を養成したい。</p>
田中部会長	<p>看護は、非常に忙しい。両方学べるのは理想ではあるが、そういうことを上手くうまくやろうとすれば、カリキュラムを工夫して一緒に学ぶものを作らない限り、絵にかいた餅になると思う。融合的にするには経済、データサイエンスのカリキュラムの見直しが必要になると思う。</p>
市立大学	<p>ムードとして、双方の学生が影響を受ければよいと考えている。</p>
田中部会長	<p>まとめに入る。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の声として、市内の大学に看護学部を立ててほしいという声が非常に強い。 ・中学校、高校からの需要もあり、進学者数については、一定程度確保できるのではないかと。 ・質の高い看護師を4年間でしっかり教育する。 ・看護の教育を担っていくために、また、運営していくために、実習先の確保、教員の確保というのが、大きな課題として残されている。 ・しっかりと実習を、というところでは、市立病院が大きく支えていただけるのではないかと。 ・構想としては、看護学科が立った折には、地域医療、地域包括医療ということも頭に入れて、内容の検討を行っていただくと良いのではないかと。今後の少子高齢、医療再編に先んじて対応できるのではないかと。 ・入学者が期待できるであろう関門地域、北九州へのヒアリングを実施していくという報告もあったので、入学者を確保できるためのリサーチを継続して行っていただきたい。 <p>このような意見があったとまとめてよろしいかと。</p>
委員	(異議なし)
田中部会長	<p>それでは、本日の意見をとりまとめて、10月12日開催予定の有識者会議に報告する。報告書の内容については、会長と相談して作成し、事務局から委員の皆様にもメールや郵送で確認いただくという作業があらうかと思う。不明な点や意見があれば、事務局まで連絡願う。</p> <p>以上で議題1「看護学部の設置について」を終了する。</p>
(2) その他	
田中部会長	<p>「その他」について、何かあるか。</p> <p>ないようなので、今後の予定について事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>※今後の予定について説明。</p>
＝本日の審議終了＝	
—閉会—	